

特許出願公告及特許拔萃

特許出願公告拔萃

銀鍍金法 (8年特許公告第2002號、公告8-5-15、大阪市、菅原榮) 色澤、耐酸性等殆純銀鍍金と異らざるのみならず之に比し著しく硬度に富み容易に磨耗剝離することなく殊に酒類容器等に適切な特殊銀鍍金を行はんとするの目的を以て、公知の銀鍍金電解液中に青化クロームの水溶液を添加せるものを鍍金液とすることを特徴とする銀鍍金方法。

軸承メタルのライニング方法 (8年特許公告第2022號、公告8-5-15、東京市、株式會社日立製作所) 軸承メタル主體とライナーとを極めて堅實に密着せんとするの目的を以て、軸承メタル主體の受壓面に錫、鉛を主成分とし之に少量の蒼鉛を添加せる合金の層を鍍着せる後ライナーを鑄込む可くせる事を特徴とせる軸承メタルのライニング方法。

高磁力合金 (8年特許公告第2037號、公告8-5-16、東京市、三島徳七) 抗磁力及殘留磁氣共に著しく大にして且製作容易なる磁石鋼を提供するの目的を以て、 Al 1~15%、 Ni 5~30%、 Cr 10%以下、 C 10%以下殘部 Fe 及不純物を含有する高磁力合金。

銅、亞酸化銅整流器の製作方法 (8年特許公告第2038號、公告8-5-16、京都市、株式會社島津製作所) 内部抵抗低く能率優秀なる此の種整流器を得んとするの目的を以て、銅板上に酸化第一銅を生ぜしむる際更に其の上に生じたる酸化第二銅の大部分を豫め酸又はアムモニアにて取除きたる後該表面を金屬製刷子にて研磨し残りの酸化第二銅を剝落せしむると同時に刷子金屬の磨滅によりて生じたる微細なる粉末を酸化第一銅結晶間に擦り込むことを特徴とする銅-亞酸化銅整流器の製作方法。

石炭の炭化に伴ふ不規則なる導電作用を制御する滿庵鐵の電氣製鍊法 (8年特許公告第2052號、公告8-5-16、岩手縣、井上義一) 供給電力全量を電極の尖端に集中して熱效率を大にし以て滓化作用の促進と還元速度を増進せしむる經濟的滿庵鐵合金の電氣製鍊方法を得んが爲めに石灰石、白雲石等鹽基性電氣抵抗質物の粉狀物を裝入に先ちて石炭粉中に媒熔劑として必要な全量を均密に擴散介在せしむることを特徴とする滿庵鐵合金の電氣製鍊方法。

鑄造耐火物の製法 (8年特許公告第2085號、公告8-5-17、米國、コルニン、グラス、ウオークス) 結晶組織を繊細緻密ならしめて以て化學的及機械的の抵抗性大なる耐火物を得んとするの目的を以て、10~60%の酸化ジルコニウムと無水珪酸、礬土及15%以下の酸化アルカリを含有する熔融物を鑄造し緩冷することを特徴とする結晶組織を有する耐火物の製造法。

吸氣自然式硫黃製鍊法 (8年特許公告第2133號、公告8-5-19、東京市、北海道硫黃株式會社) 硫黃鑛の煆焼に際し特に其初期に於て爐内原鑛中の水分を酸液となして迅速且つ十分に爐底に絞り取り爐外に排除し以て煆焼作業の進行を不能に陥らしむる危險性ある水分並に硫黃華等より成る斷熱性不透過帶の原鑛層中に形成することを未然に防止して煆焼進展の端緒を開きて熔融作業の基礎を確立すると共に第二期以後に於て流下する熔態硫黃を爐底の貯溜室内にて灰分等を分別析離して純精ならしめ特に外部よりの燃料を使用することなく高き實收率にて極めて經濟的に硫黃を製鍊採收し得るの目的を以て、爐頂部覆蓋に略ぼ均等に配設せられたる入氣口よりの給氣を終始常に下向吸氣通風によりて硫黃鑛中を遍く透過せし

め煆焼の初期に於ける低溫期を利用し迅速且つ十分に爐内の水分を酸液となし絞り取り爐外に排出し以て硫黃鑛の有効なる乾燥と豫熱とを特徴とし次いで入氣竝に排氣を漸減しつゝ爐溫の過度の煆焼による硫黃の損失とを防止して大部分の硫黃を熔融流下し最後に殆んど密閉程度迄通風を制限し硫黃の回收を完了する吸氣自然式硫黃製鍊法。

銀合金 (8年特許公告第2146號、公告8-5-22、東京市、細野來馬) 齒科用として金又は白金の代用合金を簡單且安價に得るの目的を以て、 Ag を主體となし Zn 5~20%、 Ni 5~20%、 Cu 5~20% 及 Mg 0.1~5.0% を含有する事を特徴とする Ag 合金。

金屬線金屬纖維條金屬帶等を熱處理すべき裝置 (8年特許公告第2150號、公告8-5-23、獨逸國、パテントトロイハンド、ゲゼルシャフト、フコール、エレクトリツシエ、グリュランペン、ミット、ベシユレンクテル、ハフツング) 金屬線金屬纖維條金屬帶等の熱處理に際し處理槽に對するその氣密なる導入及導出を比較的簡單に達すべき裝置を得んとするの目的を以て、處理槽(1)の導入側及導出側に水銀を填充せる線通過毛細管(4)(5)を中間連結して階段的に高まる中間壓の下に在る一個或は夫以上の通過室(6)(7)を設けたる事を特徴とする金屬線金屬纖維條金屬帶等の減壓の下に在る槽中を連續的に通過せしめらるゝが如き金屬線金屬纖維條金屬帶等を熱處理すべき裝置。(圖略)

壓延材と鑄材との結合方式 (8年特許公告第2158號、公告8-5-22、獨逸國、シーメンス、シュツケルトウエルケ、アクチエンゲゼルシャフト) 鑄材と壓延材との結合箇所の重量を輕減し且其の結合を著しく簡單ならしめんとするの目的を以て、補助壓延片を所望結合箇所に於て、鑄材内に其の鑄造等に鑄込みたる後該補助壓延片に主壓延材を熔接することを特徴とする壓延材と鑄材との結合方式。

線引型製作方法 (8年特許公告第2166號、川崎市、東京電氣株式會社) ダイとダイ支持器との結着を堅固且つ緊密ならしめ尙加工熱の放散度良好なる線引型を得んとするの目的を以て、ダイを嵌るべき凹孔を有するダイ支持器の該凹孔内に於て孔壓に融着し得べき金屬を熔融して孔壁を被覆し次で該凹孔内にダイを位置せしめ其周圍の空處に充填用金屬を熔し込みたる後前記被覆金屬と該充填金屬とを一體に融合せしむることより成る線引型製作方法。

金屬製線引型の製作方法 (8年特許公告第2167號、公告8-5-22、川崎市、東京電氣株式會社) 從來の方法に比し作業を容易且つ迅速に遂行し得せしめんとするの目的を以て、線引型製作用金屬材料の粉末を壓縮型内に充填し壓縮と同時に線引形状をも與へ尙該型作體を壓縮型内に保持したる儘端面切削等の機械的加工を施したる後壓縮型より取出し加熱硬化せしむることを特徴とする金屬製線引型の製作方法。

鐵及鋼面上に防銹層の形成方法 (8年特許公告第2176號、8-5-24、東京市、立澤勇吉外一名) 此處に形成する不溶性磷酸鐵鹽の結晶をして極微粒にして被覆均等的ならしめ其の固着を確實ならしめんとするの目的を以て、金屬若くは非金屬の水溶性磷酸鹽の水溶液中に水溶性非電解有機化合物を添加することを特徴とする鐵及鋼面上に防銹層の形成方法。

マグネシウム合金 (8年特許公告第2205號、公告8-5-24、東京市、古河電機工業株式會社) 從來の斯種合金に比し極めて強靱

にして色澤美麗且空氣中に於て變色せざる *Mg* 合金を得んとするの目的を以て、*Ag* 0.01~3%、*Al* 10% 以下と *Cd* 5% 以下と *Zn* 4% 以下と殘餘として *Mg* を含有する *Mg* 合金。

強靱特殊鋼 (8 年特許公告第 2306 號、公告 8-5-26、東京市、渡邊三郎) 原特許の強靱特殊鋼に於ける *Ni* 量を減じ *Cr* を増加し原特許の熱處理を少しく變更することによりて原特許と同程度の強靱性を有せしむるの目的を以て、*C* 0.20~0.35%、*Mg* 0.8~2.0%、*Ni* 1.0~2.5% 未満、*Cr* 2.0~4.0%、*Si* 0.7% 以下、*Mo* 又は *Va* 0.3~1.0% 或は此二倍量の *W* 殘餘 *Fe* 及び不純物を含有せる合金鋼。

マグネシウム及其合金の防蝕法 (8 年特許公告第 2229 號、公告 8-5-26、東京市、古河電氣工業株式會社) 斯る金屬を有効に保護し耐久性を保たしめんとするの目的を以て、適度の濃度を有する亜セレン酸水溶液中に目的物を浸漬し目的物の表面に金屬セレンウムを析出せしめたる後之を 50~400°C にて適當時間加熱して容易に離剝し難き防蝕被膜を形成せしむる事を特徴とする *Mg* 及び其合金の防蝕法。

酸化金屬製磁石磁性増進法 (8 年特許公告第 2245 號、公告 8-5-29、東京市、三菱電機株式會社) 之に依りて磁材の還元を起らしめ又は酸化を防ぎ其磁性を増進するの目的を以て、酸化鐵と元素周期第一族及第二族以外の金屬酸化物とより成り磁力保磁性ある物質を主體とする酸化金屬製磁石の磁材を還元性氣體、真空、低氣壓酸素又は其他の低氣壓酸化性氣體又は低分壓の酸素又は其他の低分壓の酸化性氣體を含む氣體内に高温度に保つことを特徴とする酸化金屬製磁性増進法。

活字鑄造機自動停止裝置 (8 年特許公告第 2246 號、公告 8-5-29、東京市、國友久治) 鑄型に鑄込まれたる活字が鑄型より完全に排出せられざるとき即ち鑄型が完全に口を閉ぢるとき調車と共に廻轉する摩擦輪の爪の通路に設けたる阻止挺の阻止作用により摩擦輪と調車との係合を解きて主軸の廻轉を自動的に停止せしめ熔融せる地金の流出飛散を未然に防止して作業を安全に行はしめんとするの目的を以て、主軸上に緩嵌せる調車のリムの内側には摩擦面を設け此摩擦面に係合する如く摩擦輪を嵌合し該摩擦輪のリムの一部を切斷して其一端は押捻子にて主軸に固定せる蓋板に固定し他端は蓋板に緩嵌せる偏心串の一端に嵌合し此偏心串の他端には爪を固定し爪の一端は發條にて摩擦輪のリムの固定端側に連結し爪の廻轉通路には阻止挺を搖動し得る様設け阻止挺の一端には槓杆を連結し此槓杆の一端は鑄型閉閉機構と關聯して運動する如く設けたる活字鑄造機自動停止裝置。

金屬延長體鑄造方法 (8 年特許公告第 2249 號、公告 8-5-29、大阪市、岡野宗太郎) 從來の牽引壓延操作を廢し通路孔に於ける成形體を熔融金屬の遠心壓力によりて順次壓出し以て密質にして無瑕の帶狀又は線狀の金屬延長體を長さに制限なく簡易に製造せんとするの目的を以て、熔融狀態にある金屬 (d) を周圍に所要の金屬延長體と略同一の斷面を有する通路孔 (a) を放射狀に具ふる一室 (b) に容入して之を室 (b) と共に廻轉せしめ熔融金屬 (d) をして通路孔 (a) 通過の前後に於て冷却成形せしむると共に熔融金屬 (d) の遠心力によりて成形體 (e) を連續的に壓出し之を熔融金屬容入室 (b) と一定の關係位置を保持せしめたる巻取胴 (f) に巻き取ることを特徴とする金屬延長體鑄造方法。(圖略)

アルミニウム粉末製造法 (8 年特許公告第 2268 號、公告 8-5-21、東京市、山崎隆造) 廢棄物に均しき材料を使用し附着せる不純物の存在に依りアルミニウム微細末の形成を助長し比較的純度

高き製品を極めて容易に且つ經濟的に得るの目的を以て、酸化又は腐蝕せしめたる或は塗料の附屬せるアルミニウム又はデュラルミンの如きアルミニウムを主要成分とする合金の屑物を其の儘熔融し冷却しつゝ攪拌し細末に變し風簾して不純物を分別除去することを特徴とするアルミニウム粉末製造法。

亞酸化銅光電池板製造方法 (8 年特許公告第 2306 號、公告 8-5-31、逓信大臣) 感度極めて鋭敏なる光電池用亞酸化銅板を得るの目的を以て、金屬銅を酸素の存在に於て加熱し表面に酸加銅を生成せしめて後尙適當の温度を保つ間にアルカリ、アルカリ土類又はカドミウム鹽類又は是等を含有する粉末を以て被覆し放冷するを特徴とする光電池用亞酸化銅板製造法。

蓄音器音譜盤の複製法 (8 年特許公告第 2318 號、公告 8-6-2、米國、エレクトリカル、レサーチ、プロダクツ、インコーポレーテッド) 雜音を交へざる優良の音譜盤を複製し得べくする原型の金屬被覆操作を迅速に行ふべくし以て高級の音譜盤を經濟的に複製し得べくする目的を以て、蓄音機音譜盤製造用の金屬の打印スタンプを製作するに用ひらるゝ逐次の電氣鍍金工程の以前に豫め蠟質材料の音譜盤に導電性の金屬被膜を堆積せしむるに急速の連續的電氣噴着法を以てし且上記蠟質音譜盤の背面に密接して冷却用媒體を循環せしむることに依り該音譜盤の温度を豫定せる限界内に維持すべくせるを特徴とする蓄音器音譜盤の複製法。

電氣的調波分析器 (8 年特許公告第 2322 號、公告 8-6-2、逓信大臣) 共振回路に於ける殘留基本波電流の影響を除去し以て所要の高調波を測定し得べき調波分析器を得んとするの目的を以て、誘導線輪及蓄音機より成る直列共振回路式調波分析器に於て共振回路に第一熱電對 (若くは熱電堆) の加熱線を挿入し共振回路と並列に第二回路を設け之には第二熱電對 (若くは熱電堆) の加熱線を挿入し第一熱電對の發生起電力中殘留基本波電流に基づく熱起電力を第二熱電對の熱起電力を以て打消さしむる様之等の熱電對を接續し以て基本波電壓の影響を受くる事なく所要の高調波電壓を測定し得べからしめたる電氣的調波分析器。

發炭爐蓄熱室に於ける給氣又は排氣裝置 (8 年特許公告第 2331 號、公告 8-6-2、八幡市、相良春一) 蓄熱室の全長に互り各部の通氣及熱分布を均一ならしめ熱効率を高め且つ通氣及熱分布の調節を容易ならしむるの目的を以て、一蓄熱室毎に其底部に各二條の水平導溝を設け該導溝に於ける給氣又は排氣を常に相反する方向に流れしむることを特徴とする發炭爐蓄熱室に於ける給氣又は排氣裝置。

冷硬白色鑄鐵の改良 (8 年特許公告第 2337 號、公告 8-6-2、神戸市、株式會社神戸製鋼所) 冷硬白色鑄鐵の強靱性を著しく増加せしめんとするの目的を以て、*T. C* 3.0~4.3%、*Mg* 0.2~1.2%、*Si* 0.2~0.8%、*S* 0.02~0.1%、*P* 0.6~2.0% 殘餘 *Fe* より成る冷硬白色鑄鐵。

マグネシウム及其合金の防蝕法 (8 年特許公告第 2362 號、公告 8-6-5、東京市、古河電氣工業株式會社) 生成 *Se* 被膜の密實性を増大せしむると共に亜セレン酸の放出を極力完全ならしめんとする目的を以て適當の濃度を有する亜セレン酸水溶液中に目的物を浸漬して目的物の表面に金屬 *Se* を析出せしめる後之を 50~400°C に於て適當時間加熱して容易に離剝し難き防蝕被膜を形成せしむる *Mg* 及其合金の防蝕法に於て前記加熱處理前水洗に依り *Se* 被膜に附着したる亜セレン酸を溶出せしむることを特徴とする方法。

マグネシウム及其合金の防蝕法 (8 年特許公告第 2363 號、

公告 8-6-5、東京市、古河電氣工業株式會社) 亞セレン酸の還元により生成したる Se を浸漬處理に依て附着せしめたる Se 粒子間に介在せしむることに依り生成 Se 被膜の密實性を増大せしむると共に亞セレン酸の放出を極力完全ならしめんとする目的を以て適當の濃度を有する亞セレン酸水溶液中に目的物を浸漬して其の表面に金屬 Se を析出せしめたる後之を $50\sim 400^{\circ}C$ に於て適當時間加熱して容易に離剝させる防蝕被膜を形成せしむる Mg 及其合金の防蝕法に於て浸漬處理に依り Se 被膜を被着せしめたる目的物を加熱處理前還元劑に依て處理して Se 被膜に附着したる亞セレン酸を金屬 Se に還元せしむる方法。

蓄電池ボックス型基板鑄造機 (8 年特許公告第 2403 號、公告 8-6-6、京都市、日本電池株式會社) 操作極めて簡單にして能率よく殊に大なる鑄型を取扱ふ際にも容易に作業なし得る目的を以て鑄型の母型面上に鉛板懸吊ピンを設け鑄型を常に垂直若しくは垂直に近き位置に於て閉開操作し得べくなく鑄型を開きたるとき鑄込むべき鉛板を該ピンに懸吊し其儘鑄型を閉合することにより鑄型内に該鉛板を固く挾持せしむる事を特徴とする蓄電池ボックス型基板鑄造機の改良 1. 母型面上に出入自在なる懸吊ピンを裝置し鑄型開放の時之を突出せしめ閉合の時壓入すべくせる前記記載の蓄電池ボックス型基板鑄造機 2. 懸吊ピンを片方の母型面上に植着し鑄型閉合の際該ピンの先端を他方の母型面上に陥入せしむべく爲せる前記記載の蓄電池ボックス型基板鑄造機 3. 懸吊ピンをボックス型基板のリベット穴を形成せしむべく利用したる前記特許請求範圍記載の蓄電池ボックス型基板鑄造機 4. 懸吊ピンに鑄造物押出方を固着したる前記特許請求範圍記載の蓄電池ボックス型基板鑄造機。

磁性合金 (8 年特許公告第 2409 號、公告 8-6-6、仙臺市、金屬材料研究所長) 從來知已の $Fe-Si$ 合金或はパーマロイよりも高き導磁率を有しヒステリシス損失少く且比抵抗高く變成器其他の電氣機器等の材料特にローディングコイル用鐵心等として有益なる磁性合金を得んとする目的を以て主成分として $Si\ 0.5\sim 16\%$ 、 $Al\ 0.5\sim 16\%$ 殘餘の Fe を含有する Si 、 Al 、 Fe 三元系磁性合金。附記 1. 副成分として $Mg\ 2\%$ 以下、 $Cr\ 2\%$ 以下、 $Bd\ 2\%$ 以下、 $Ti\ 2\%$ 以下の何れか 1 種又は數種を含有合金せしめたる前記記載の磁性合金。

錫基減摩合金 (8 年特許公告第 2421 號、公告 8-6-7、東京市、株式會社ヤマトメタル商會) 硬度耐壓力並に延伸率の大なる軸承合金を得むとする目的を以て $Cu\ 3.0\sim 6.0\%$ 、 $Sb\ 3.0\sim 6.0\%$ 、 $P\ 0.001\sim 1.0\%$ 、 $Cd\ 0.1\sim 3.0\%$ 殘餘 Sn を含有合金せしめたる錫基減摩合金。

磁性合金 (8 年特許公告第 2428 號、公告 8-6-7、東京市、古河電氣工業株式會社) 海底電話電纜裝荷用として最適なる初導磁率を有し其の導磁率は磁場に対して變化極めて少く電氣抵抗又非常に高値にして特に其の磁氣ヒステリシス損失は無視し得べき程度に微少な材料を得んとする目的を以て $Ni\ 35\sim 85\%$ 、 $Ti\ 4\%$ 以下、 $Cu\ 5\%$ 以下、 $Mg\ 10\%$ 以下殘餘鐵並に此等の不純分より成る事を特徴とする海底電話電纜裝荷用材料。附記、電氣比抵抗を増加せしむる爲 Cr 、 Al 、 Si の 1 種又は 2 種以上を 5% 以下添加したる前記記載の海底電話電纜裝荷用材料。

アルミナ製造方法 (8 年特許公告第 2434 號、公告 8-6-7、東京市、牛田包美) 處理すべき原料混合物を二段階式に加熱することにより處理時に必然的に伴ふアルミナ及アルカリ分の損失を極度に軽減し以て其收得率を増加し處理を經濟且簡易に遂行し得せしむ

る目的を以て粘土を 100 メツシユ以下の細粉となし之に適當量の芒硝と此芒硝の全硫酸根を還元するに相當する量の $1/4$ 量の炭素末と粘土中の全珪酸に反應すべき適當量の生石灰とを加へ能く攪拌し爐中に入れ第一段階として $700\sim 800^{\circ}C$ に於て 1 時間焙焼し其後直ちに第二段階として $900\sim 1,200^{\circ}C$ にて 1 時間加熱して燒結せしめ冷却後之を 100 メツシユ以下の粉末となし之に重量にて其 $3\sim 4$ 倍の水を加へ攪拌し浸出してアルミ酸曹達の水溶液となすことを特徴とし之に炭酸瓦斯を通して水酸化アルミニウム沈澱と炭酸曹達水溶液となし此水酸化アルミニウム沈澱は約 $1,000^{\circ}C$ にて燒きてアルミナとなし炭酸ソーダ水溶液は蒸發乾涸して粉末炭酸曹達となし次回の處理溶劑となることより成るアルミナ製造方法。

硝子と接着状態に於て硝子中に封入せられたる合金 (8 年特許公告第 2437 號、公告 8-6-7、松江市、石川修三) 熱による膨脹收縮を硝子の夫れと著しく近似すると同時に膨脹收縮曲線を連續可逆性ならしめ以て硝子と極めて緊密に接着し得る合金を得んとする目的を以て $Cr\ 20\sim 30\%$ 、 $Si\ 0.5\sim 15\%$ 及 $C\ 0.2\%$ 以下を含む鐵合金より成ることを特徴とする硝子と接着状態に於て硝子中に封入せられたる合金。

粘土を含有する物質特に陶土或は粘土等を礬土及其化合物に加工せしむる方法 (8 年特許公告第 2457 號、公告 8-6-9、ルクセンブルグ國、ブルーバード、アルテラ、アワチエン、ゲゼルシャフト) 最も有効にして且經濟的方法により含粘土物質例へば陶土、粘土等を礬土及其化合物に加工せしめむとする目的を以て灼熱を眞空内特に高眞空内にて有効に行ふことを特徴とする豫備灼熱(煅燒)後に亞硫酸水溶液を以て分解し粘土を含有する物質特に陶土或は粘土等を礬土及其化合物に加工せしむる方法。

含錫不純溶液より酸化銅を加へて錫を沈澱分離する方法 (8 年特許公告第 2472 號、公告 8-6-9、大阪府、化學研究所長) Sn の損失を來さずして錫溶液電解後の溶液精製を行ひ又は含錫溶液より Sn の分離回収を行はんとする目的を以て Sn と共に Cu 、 Fe 或は其の他の金屬の一種又は數種を含有する混合溶液に於て Fe を全部二價の状態を保ち又は二價の Fe は多量に存在するも三價の Fe は Sn の 1 瓦分子に対して 2 瓦分子以下の割合なる状態に於て酸化銅或は酸化焙燒したる銅精鑛を加へ Sn のみを優先的に沈澱分離する方法。

アルミニウム合金 (8 年特許公告第 2475 號、公告 8-6-9、英國、ロールス、ロイス、リミテッド) 耐摩減性に富み單なる低温處理によりて高き硬度を得べきアルミニウム合金を得んとする目的を以て Cu 全體の $3.5\sim 5\%$ 、 Mg 全體の 2% 以上但し 3.5% を超えず、 Ni 全體の $2\sim 3.7\%$ 、 Fe 全體の $0.05\sim 0.7\%$ 、 Si 全體の $0.5\sim 1.5\%$ 、 Al 殘餘、他の要素、痕跡を含有するアルミニウム合金。

衝撃熔接方法 (8 年特許公告第 2483 號、公告 8-6-9、神戸市、株式會社川崎造船所) 金屬の熔接部分に發生する瓦斯並に熔滓を外部に逐出し熔接部に空窩を作らしむることを阻止し桿を鉗に強固に熔接し得べからしむる目的を以て金屬桿を金屬鉗の表面に熔接する際最初桿を鉗の表面に接觸し電流を通し其桿を引離して桿及鉗間に電弧を發生せしめ其接着面を熔融したる後桿を鉗に壓着し且電流は遮斷して電氣熔接をなす衝撃熔接方法に於て桿と鉗との面を熔解し桿を鉗に壓着する際に該桿をして其軸の周りに廻轉せしむべくしたる衝撃熔接方法。

特許明細書抜華

明礬石を含有する鑛石中より明礬石を其他の鑛物より分

離選別する方法 (特許第 100390 號、特許 8-4-4、朝鮮京城、石川留吉、昭和 7 年公告第 5452 號)

耐酸、耐アルカリ耐腐蝕性大なる管棒、板製造用合金 (特許第 100399 號、特許 8-4-4、神戸市、株式會社神戸製鋼所、昭和 7 年公告第 5588 號、拔萃掲載本誌 19 年、1 號)

銅鐵クロミニウム、アルミニウム合金 (特許第 100410 號、特許 8-4-4、東京市、日本特殊金屬工業株式會社、昭和 7 年公告第 4748 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 13 號)

銅、鐵素合金 (特許第 100411 號、特許 8-4-4、東京市、日本特殊金屬工業株式會社、昭和 7 年公告第 5074 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 12 號)

熔接方法 (特許第 100436 號、特許 8-4-5、東京市、三菱造船株式會社、昭和 7 年公告第 5648 號)

耐蝕性大なる強力輕合金 (特許第 100469 號、特許 8-4-7、東京市、航空研究所長、昭和 8 年公告第 1102 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

銅合金鐵 (特許第 100516 號、特許 8-4-11、大阪市、住友伸銅管株式會社、昭和 8 年公告第 73 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

高級鑄鐵製造法 (特許第 100563 號、特許 8-4-13、獨逸國、ウエスト、フアリア州、カール・ブラケルスベルグ、昭和 7 年公告第 4748 號、拔萃掲載「鐵と鋼」19 年 11 號)

銅鐵ニッケル、クロミニウム、アルミニウム合金 (特許第 100602 號、特許 8-4-17、東京市、日本特殊金屬工業株式會社、昭和 7 年公告第 5572 號、拔萃掲載「鐵と鋼」19 年 1 號)

銅線製造方法 (特許第 100614 號、特許 8-4-17、東京市、秋山實、昭和 7 年公告第 4934 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 12 號)

海水の腐蝕に耐ゆるアルミニウム輕合金 (特許第 100639 號、特許 8-4-18、東京市、三菱造船株式會社、昭和 8 年公告第 188 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

金屬性を備ふる有機纖維素材の製造方法 (特許第 100704 號、昭和 7 年公告第 5675 號、特許 8-4-21、公告 7-12-28、獨逸國、シーメンス、シュツケルトウエルケ、アクチエンゲゼルシャフト) 纖維素特に木材と金屬との性質を兼有する材料の簡單なる製造方法を提供するの目的を以て、纖維素に先づ液體特に水を浸潤せしめ次にこれを加熱熔融せしめたる金屬浴中に浸すことを特徴とする金屬性を備ふる有機纖維素材の製造方法。

整流器用酸化銅板の製法 (特許第 100726 號、昭和 7 年公告第 481 號、特許 8-4-24、公告 8-2-1、東京市、金子清次) 整流能率良好なる整流器用酸化銅板を得んとするの目的を以て、表面に亜酸化銅を生成せしめたる銅板を高溫状態に於て壓搾することを特徴とする整流器用酸化銅板の製法。

マグネシウム又は其合金の防蝕方法の改良 (特許第 100727 號、特許 8-4-24、仙臺市、金屬材料研究所長、昭和 8 年公告第 463 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

合金の改良 (特許第 100728 號、特許 8-4-24、仙臺市、金屬材料研究所長、昭和 8 年公告第 493 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

砂型製造用微粉末の製造方法 (特許第 100735 號、特許 8-4-24、東京市、戸畑物産株式會社、昭和 7 年公告第 4970 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 18 年 12 號)

金庫又は格納庫壁用合金鋼 (特許第 100760 號、特許 8-4-

25、東京市、株式會社日本製鋼所、昭和 8 年公告第 150 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

硫黄製煉装置 (特許第 100782 號、特許 8-4-26、東京市、藤山常一、昭和 8 年公告第 425 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

アルミニウムと錫との合金製造法 (特許第 100787 號、特許 8-4-26、英國、ハーバート、タスマン、デイウィース、昭和 8 年公告第 426 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

炭質原料乾燥方法 (特許第 100791 號、昭和 8 年公告第 470 號、特許 8-4-2、公告 8-2-1、英國、ジョセフ、ウキリアム、ボレスアインスコウ) 連續せるレトルト内に炭質原料を移行せしめ該レトルトの各部分に異なる熱を與へ該熱によりて發生する瓦斯を夫々分離して採集せんとするの目的を以て、外部加熱による傾斜レトルト内の累進的に上昇する溫度を有する一例の區劃を通して粒狀若くは類似の状態に於ける原料を牽引板を有する無端運送器により連續せる淺き流れとして牽引し原料を隣接する區劃の間に介在する狹窄部を通して牽引する際該區劃は該原料により狹窄部を閉鎖することにより相分離せられ而して如斯各區劃より別々に瓦斯生成物を捕集し且凝縮することを特徴とする炭質原料乾燥方法。

錫又はアンチモン器具に樹脂質物を張合せる方法 (特許第 100799 號、特許 8-4-26、東京市、伊藤政治郎、昭和 8 年公告第 348 號、拔萃掲載「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

アルミニウム銅を脂肪油重合装置に使用する方法 (特許第 100800 號、特許 8-5-4、東京市、日本石油株式會社) (公告拔萃記載誌「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

耐摩合金 (特許第 100904 號、特許 8-5-4、徳島市、紙谷善吉) (公告拔萃記載誌「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

薄鐵板の壓延法 (特許第 100888 號、特許 8-5-4、大阪市、北村廣清) 荒ロールと仕上ロールとの作業時間の長短及作業時間の齟齬に基く荒ロールの空轉の時間を可及的少くすることによりて一定時間内に於ける作業鐵板の数を多からしめんとする目的を以て荒爐にて加熱したる原料鐵板を荒ロールにて壓延したる後特に設けたる再熱爐にて加熱することを特徴とし之を仕上ロールに送りて第一仕上壓延をなし次に中延爐にて加熱し第二仕上壓延として數回壓延し剝離折疊の工程を経て第三壓延として數回の壓延をなすことよりなる薄鐵板の壓延方法。

軸承合金 (特許第 100933 號、特許 8-5-5、東京市、岩崎巖) (公告拔萃記載誌「鐵と鋼」第 19 年 10 號)

爐瓦斯より硫黄を回收する方法 (特許第 100924 號、特許 8-5-5、瑞典、バテント、アクチボラゲト、グレンタル、ラーメン) (公告拔萃記載誌「鐵と鋼」第 19 年 1 號)

酸化銅整流器酸化銅片の製法 (特許第 100932 號、特許 8-5-5、東京市、飯尾達次郎) (公告拔萃記載誌「鐵と鋼」第 19 年 1 號)

酸化銅整流板製造法 (特許第 100954 號、特許 8-5-6、東京市、株式會社日立製作所) (公告拔萃記載誌「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

シーメンス、マルテン式又は他形式の熔鑄爐の空氣及瓦斯通路壁を冷却する方法 (特許第 100970 號、特許 8-5-8、伊太利、テルニ、ソシエタ、ペル、リンドストリア、エ、レツトリチタ) (公告拔萃記載誌「鐵と鋼」第 19 年 2 號)

ピッチ炭製造法 (特許第 100973 號、特許 8-5-9、東京市、田部爲治外一名) (公告拔萃記載誌「鐵と鋼」第 19 年 1 號)